

要望書への回答報告

- 1 日 時 平成 29 年 11 月 15 日(水) 午前 9 時から 10 時
- 2 場 所 県庁西館 7 階 教育総務課
- 3 参加者
- | | | | |
|---------|---------|-------------------|--------|
| 県教育委員会側 | 義務教育課 | 教育主監 (人事担当) | 中村 悟史 |
| | | 教育主監 (幼児教育推進センター) | 福井 孝子 |
| | 特別支援教育課 | 班長 | 前田 貴子 |
| 静言研側 | 会長 | 静岡市立番町小学校長 | 大石 成伸 |
| | 事務局 | 静岡市立番町小学校 | 清水 直子 |
| | 調査対策部長 | 御殿場市立朝日小学校 | 藤本 知美 |
| | 調査対策部 | 三島市立中郷小学校 | 田中 久美子 |

4 要望書への回答

(1) 通級指導教室の新設・増設について

厳しい状況を感じている。貴重な資料として要望書をいただいた。ここ数年 4～8 教室を新設・増設してきた。今の段階でははっきりしたことは決まっていないが、来年度についても同じような数で推移していくと思われる。来年度、爆発的な数で増設することはない。ニーズがあることは把握している。通級指導教室未設置の町については、早期指導充実対応の方が良いと考え、中学校での開設希望があることは承知していたが、まず小学校から開設してきた。中学校のニーズがあること、県内ではまだまだ通級指導教室が少ないことは感じている。小学校 6 年生まではきちっと指導を受けられるのに、中学校で受けられないという課題は認識している。小さい町でもニーズはあるが、対象とする子どもが少ない。週 2 4 時間の指導ができる体制を作っていただきたい。町をまたいで指導するとなると、環境整備を町が負担しているので課題が多い。越えなければならない高いハードルがいくつかある。肢体の通級指導教室の見学などもして、先進的な取り組みにも目を向けている。

(2) 教員の増員について

基礎定数化の中で出されている子ども 13 人に対して教師 1 人の割合ということも鑑みても、現在、十分な教員の配置ができていないと感じている。通級指導教室や特別支援学級だけでなく、いろいろな所で子どもたちのための人の配置を叫ばれているので、通級を最優先にすることはできないが、ここ数年の数は確保していきたい。

人的配置の増加はなかなか難しいが、教育課程外で市町や学校で工夫している取り組み(三島市や藤枝市の実践)を情報交換しながら紹介し、各市町や学校で、工夫できるところは取り入れていくことを広めていきたい。

(3) 教員の専門性・研修について

十分な研修が確保できていない。特に言語の研修は専門性が高いので静言研にお世話になっている。県としても、研修の機会の拡大と質の充実を考えている。今年 7 月には、発達と言語の両方の研修会を行った。来年度も全ての障害種を対象に研修会を行う予定。通級の先生は、通常の担任との連携も大切になってくる。通常級の先生に対する特別支援の

資質・能力を高める研修も徐々に進めていく。通級担当の先生の専門性を高めることと、通常級の先生の特別支援に関する専門性を高めることの両輪で、研修の機会の拡大と充実を図っていききたい。現在、総合教育センターの特別支援班が、通級指導担当者（新しく担当になった人向け）用のガイドブックを作成中。国では、通常級の先生の通級に通っている子への支援の仕方、通級の先生との連携の仕方、通級の制度、学校体制としてどうしたらよいか、教育委員会はどうしたらよいかなどのガイドブック（手引き）を作成中。来年度あたりには出るのではないかという段階。そのガイドブックの周知・啓発を研修の中に取り入れていきたい。

（４）早期指導充実について

幼児ことばの教室については、市町ごとの対応なので県内で格差があることは承知している。各市町においても、幼稚園・保育園・こども園以外の受け皿を充実させていきたいという思いがあり、県も把握している。昨年度から、県の教育委員会の中に幼児教育センターを設置した。本格的に各市町の幼児教育の充実の支援をしていく。担当者を集めて情報交換や、国の動向・県の方向性を伝える場を昨年度から設けている。そこに各市町の学校教育課の担当者も来て、幼小連携を図る場を作ることを通して、各市町の優れた取り組みを知ってもらうようにしている。幼児ことばの教室担当者の専門性を高めるために、県で行った研修会への参加を案内させていただいた。これからも、案内させていただく。幼児教育アドバイザーを各市町に配置するようにして、特別支援の視点からだけでなく大きな視点から見て調査・研究をしている。加茂地域を指定地域にしている。幼児教育センターで行っている研修会の中に、浜松のこどもの発達科学研究所の方をお呼びしての特別支援の研修がある。幼児通級指導教室の先生方にも参考になると思われるので、参加してみてください。

（５）聴覚通級指導充実について

入学前聴覚スクリーニング検査については、就学支援担当者の研修会（年２回）で話題にしていく。

（６）要望書全体について（特別支援課班長より）

特別支援教育を推進していく会議の中で通級について取り上げ、教員の専門性を高めていくこと、通常級との連携や中学校の通級のニーズの高まりなどを、オール教育委員会で、重く受け止めている。今回の要望書の内容は、教育委員会はみんな知っていることと考えていただいてよい。今後、教育委員会全体でどんな風に改善できるか検討していくつもりである。

（７）特別支援学校との連携

特別支援課が、県の研究指定として静岡聴覚特別支援学校で、センター的機能をどのように発揮していくかという研究に２年間取り組んでいる。昨年度は、聴覚通級に通っている子どもの在籍校を訪問して、教室環境の整え方や通級の指導をどのように通常級でいかすのかを助言した。今年も、教育相談に来ている子の学校を訪問するようにしている。静岡聴覚特別支援学校の研究が、沼津や浜松にも広がるとよいと考えている。